

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 令和5年度第3回会議
開催日時	令和6年2月9日（金）午後5時30分から7時35分まで
開催場所	田無第二庁舎4階会議室1
出席者	委員：鈴木委員、都築委員、長崎委員、廣瀬委員、多々良委員、漆原委員、行田委員 事務局：吉田課長、森主係長、川野主任、亀田主事、沼上文化財保護専門員
議題	1 開会 2 協議事項 （1）西東京市文化財保存・活用計画の取組状況について （2）第2期西東京市文化財保存・活用計画策定状況について 3 報告事項 （1）下野谷遺跡の保存・活用について （2）文化財事業実施報告（埋蔵文化財、その他の文化財事業等） 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	資料1 西東京市文化財保存・活用計画 取組状況 資料2 第2期西東京市文化財保存・活用計画 策定状況 資料3 第2期西東京市文化財保存・活用計画 素案 資料4 下野谷遺跡の保存活用について 資料5 埋蔵文化財調査一覧・地点 資料6 文化財事業一覧
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容

協議事項

（1）西東京市文化財保存・活用計画の取組状況について

- 鈴木会長：事務局から説明をお願いする。
- 事務局：（資料1に基づき説明の後、）配布した資料について、2月29日までにコメントをいただきたい。
- 鈴木会長：文化財主管課である社会教育課の取組に対しては各委員の知見からコメントを出し得るが、その他の部署の取組については、どのような目線でコメントを出せばよいか。
- 事務局：文化財の保存・活用という全体的な観点から方向性の提言などを頂戴

できればと考えている。

○鈴木会長：例えば、屋敷林などの複合的な価値をもつものの保存については、役所のような縦割りの取組方法では難しいところもあるのではないかと。また、学校との協力が必要な事業、例えば「まちなか先生」については、どのような評価を求められているのか。

○事務局：部署横断的な点については、庁内連携を強化して対応したい。学校連携事業については、実施した取組みについて、大きな点、小さな点それぞれについてお気づきのところがあればご指摘をいただきたい。

○行田委員：学校との連携については、教員に対する研修などを実施して学校の受け皿を強化することも重要である。

○多々良委員：これまでの審議会での報告から教員初任者研修についてはだいぶ進んできたかと受け止めている。他方、日常の授業への取り込みについてはまだまだ課題があるのではないかと考えている。

○事務局：今年度、教員研修に呼ばれる形で下野谷遺跡の事例紹介をしたり、現地見学会も実施した。こうした取組みを引き続き進めていくとともに日常の授業への取り込みについても教育指導課等に相談しながら検討を重ねてまいりたい。

○鈴木会長：ボランティアの活用が活発になれば解決できる点も多いかと思う。

○事務局：下野谷のガイドボランティア、植生のボランティアの養成も考えているが、仕組み作りが追い付いていない感はある。ボランティアではないが、ムラびとの活用も進めてうまくいけばとも考えている。

○長崎委員：ボランティアの育成については、とても難しい一面もある。雇用関係であれば当然に言えることも、それが無償であるために言えなくなってしまう、ガイドをする際などに、多分に私見を含んだ説明がなされたりすることも他の遺跡のボランティア活動で生じた課題として聞いたことがある。

とはいえ、大きな力になることは間違いないので、うまい育成方法を考えることが重要になってくる。

○多々良委員：ボランティアの役割を観光ガイドとして位置づけるのか、学識ボランティアとして位置づけるのかによってもその育成方法は変わってくると考えられる。

○漆原委員：京都には、「京都学」という検定があって、ペーパーテストやランクもあったりする。そうしたものを使いながらボランティアのレベルを統一していく考え方もあるが、それでも現場の運用には難しいことがたくさんあると聞く。

○都築委員：下野谷遺跡のボランティアの構成はどのようなになっているのか。

○事務局：「語り部」と呼ぶガイドボランティアが7名。講義や修了検定も受検してもらっている。また、「里山づくり隊」と呼ぶ植生に関するボランティアが20名ほどいる。また、ボランティアという位置付けではないが、活動に賛同を示してくれている「ムラびと」は400名弱いる。

○都築委員：練馬区の博物館では、露出展示について、講習を受講した人を区民学芸員としてガイドをやってもらっている。交通費程度の報酬は払っているため、すぐにといいわけにはいかないかと思うが、今後の検討材料にしていきたい。

（２）第２期西東京市文化財保存・活用計画策定状況について

○鈴木会長：事務局から説明をお願いします。

○事務局：（資料２及び資料３に基づき説明）

○鈴木会長：素案の47ページは、見やすさを主眼に作ったものかと思うが、重要な単語すら抜けてしまっている部分があるかと思う。例えば、目標１「西東京市の歴史文化を知る」では、市民調査員制度の記載は大変重要なものだと考えるが、51ページ以降の個別の目標詳細まで読み進めないと出てこない。47ページは、重要な単語をしっかりと掲げつつ、現状の文章にあたる部分はスリム化を図った方がよいと思う。その上で、51ページ以降で詳細を説明する構成の方が重複感が減るのではないか。

○事務局：承知した。記載方法について検討したい。

○廣瀬委員：下野谷遺跡への偏りがどうしても気になる。他の時代のものにももう少し着目できないものか。

○事務局：現行計画は、史跡指定されたタイミングで策定したこともあり、計画の柱の一つとして下野谷遺跡を位置づけていた。しかしながら、現在の状況や審議会でのご意見も踏まえ、今回は柱としての位置づけはせず、委員のおっしゃった趣旨はある程度反映できていると考えている。

○廣瀬委員：下野谷遺跡の扱いを積極的にするだけでなく、他の要素をもう少し入れてほしい。例えば、47ページのキーワードのうち、固有名詞は下野谷遺跡だけだ。下野谷遺跡が重要なのはわかるがあまりに偏り過ぎると思う。

○事務局：ご指摘も踏まえ、検討する。

○多々良委員：47ページの部分について、アンケートなどのニーズから市民と行政の共通課題を抽出して問題提起していないので、行政がやるべきことを市民が担わされているだけのようにも読めてしまう。

○事務局：問題意識について承知した。記載を工夫して問題意識の盛り込みができないか確認する。

○長崎委員：47ページから行政側の思いはわかったが、これに市民がどう参加できるのか、何をやったらいいのかを書いたらその思いが伝わるのではないか。

○廣瀬委員：その際、縄文時代以外も大事にしていることも明示してほしい。

○事務局：種々頂戴したご意見を精査させていただく。

○行田委員：下野谷遺跡への意識の強さは、アンケート調査の影響によるものが大きいと思う。アンケート項目中、下野谷遺跡やキャラクターについて問うものが多く出ており、そうしたことも偏りという印象を与えるの

ではないか。

- 鈴木会長：下野谷遺跡以外の文化財も等しく重要であるという点について、何か打ち出せないか検討してみしてほしい。
- 事務局：アンケート調査については、現行計画時との比較を意識した項目立てを行った。先ほど説明したとおり、現行計画では下野谷遺跡が計画の柱の一つであったため、調査項目にも必然とあがってきて、それとの比較を行うために今回も項目となった次第ではあるが、偏りがいないかという視点で今一度確認をさせていただく。

報告事項

(1) 下野谷遺跡の保存・活用について

- 鈴木会長：事務局から報告をお願いします。
- 事務局：（資料４に基づき報告の後、）配布資料はないが、来年度の整備及びガイダンス施設の設置検討状況について報告する。
- 長崎委員：ガイダンス施設の設置は、現状、駐車場になっているあたりに仮設で設置することや空き家の活用については検討したか。
- 事務局：仮設置については補助事業の対象とならない可能性が高く、庁内の予算化が難しくなる旨を指摘されている。
- 鈴木会長：妙案が出てくることを期待する。
- 事務局：来年度以降も検討して進めていくため、引き続きご指導賜りたくよろしく願いたい。

(2) 文化財事業実施報告

- 鈴木会長：事務局から報告をお願いします。
- 事務局：（資料５及び資料６に基づき報告）
- 長崎委員：坂下遺跡から、低湿地の層は出ていないのか。
- 事務局：まだ確認できていない。
- 行田委員：江戸時代に関する事業は展開できていないのか。
- 事務局：学校で、教員の方々が田無の歴史について劇仕立てで授業を行うという情報提供はいただいたことがあるが、当課に依頼は来なかったため、本件資料には掲載していない。
- 行田委員：中等教育における歴史は、どうしても通史的になってしまい、文化財事業に親和的な地域史からは離れてしまう現状があるため、中等教育へ文化財事業をどう取り込んでいくかということは課題としてあげてよいように考える。
- 漆原委員：小中学校に向けた文字教育のワークショップなども行っている。
- 廣瀬委員：花押を使った講座なども人気がある。
- 事務局：そのようなご知見や先生方のご協力をいただき、事業や講座の幅を広げていきたい。

4 その他

- 鈴木会長：それでは、全体を通して何かあるか。

- 事 務 局：今年度、もう一度審議会を開催予定。日程は別途相談させていただく。
- 鈴木会長：以上をもって、令和５年度第３回会議を閉会する。